



セクシュアリティを見つめること、それは、自分探しの旅。



出演：ポーリーヌ・レアージュ、  
ベッティナ・ランス、  
アニー・スプリングル他  
監督：マヤ・ガルス  
製作：ジュリア・セレニー  
撮影：ゾエ・ダース  
編集：キャシー・ガルキン  
配給：アップリンク

エロテイカ

# erótica

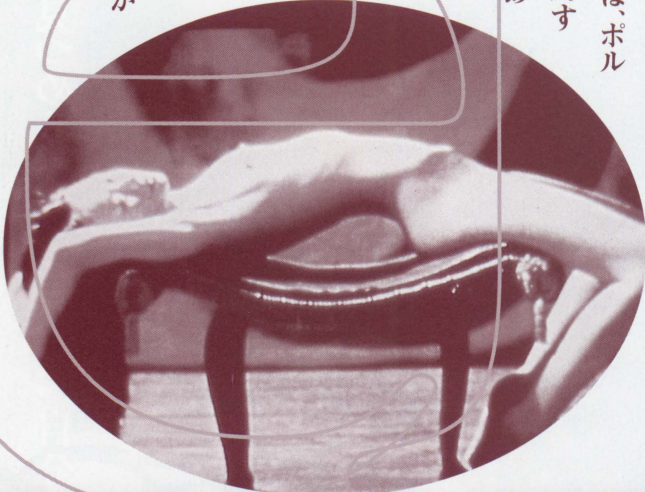
1997/カラー/カナダ映画/76分/16mm・ビデオ/1:1.33

©1998 Karin Ståkessy/O.I.P. Tokyo

# 『O嬢の物語』の謎の作家ポーリーヌ・レアージュを始め、10人の女性がカメラの前で自らのセクシュアリティを告白。

## 【解説】

『エロティカ』は10人の女性アーティストが、表現やプライベートにおけるセクシュアリティを語ったドキュメンタリーである。カメラは彼女らの仕事場、私的な空間、心の奥にまで静かに入り込み、長年、謎の作者とされていた『O嬢の物語』の作者ポーリーヌ・レアージュの告白や元ポール女優アニー・スプリングルのセクシュアリティ闘争の現場は立ち会う。世界的な写真家ベッティナ・ランスは、ポルノと称される自らの作品に対する世間のレッテルを受けとめる世間のレッテルを受けとめる。監督以下全スタッフが女性のこの作品は、決して特別な人々の非日常をとらえた映画ではない。自分の性を受けとめることによって積極的になり、イメージとしての性に流されない自己発見のきっかけとなるのが、本作品である。



### 監督マヤ・ガルスコメント

いまは性的な記事や広告が氾濫している時代だけれど、本当に自分のセクシュアリティや欲望を知っている人は多くはないのではない



でしょうか。この映画に登場する人達は自らのセクシュアリティを発見し、創造力に変えていった女性達です。自分の欲望を知っている女性は、セクシーで強い。私は、誰にでもあるその可能性のドアを開きたいと思いました。この作品を見たみなさんが、触発されて、自分のセクシュアリティを確認したり、パートナーと話し合ってくれるようになれば嬉しい。男性にとっては、女性が自分の体や欲望をどう考えているかを知る手助けになると思います。私は女性が美しく年を重ねていくための重要なキーワードが、『エロティカ』だと考えています。

1997年/カラー/カナダ映画/76分/16mm/ビデオ/1:1.33  
 出演：ポーリーヌ・レアージュ、ベッティナ・ランス、アニー・スプリングル 他

(写真右より)

アリーナ・レイエス(作家)

女性は二つのタイプに分けられてしまう。一つは家庭にいる女性で、もう一つはセックスに溺れている女性。しかし女性は家庭的であると同時にセクシュアルであることが出来るのです。

ワイリス・クリストファー(写真家)

私は『エロティックな写真を撮りたい』とは絶対に言わない。私が撮りたいのは自分の体を愛している女性の写真。

ポーリーヌ・レアージュ(『O嬢の物語』著者)

支配されたいという欲望は、男性だからとか女性だからとかいう根拠は何もないのです。定義もなければ、ひとつのカテゴリーに納めることもできません。

ベッティナ・ランス(写真家)

『エロティシズム』という言葉には、どこか偽善的なニュアンスを感じるわ。私の作品を見た人に『あなたの作品はポルだね』と言われたら、それは私にとって最高の賛辞よ。

ジャンヌ・ド・ベルグ

(SM女王様・作家アラン・ロフリクリエの妻)

私は心の中で笑っている。「みんな私のもうひとつの顔を知らないんだってね。そんな自分が楽しくて仕方ないわ。」

アニー・スプリングル(女優・映画製作者)

熟年の女性は若い女性よりもセクシーよ。熟年の女性こそセックスシンボルにふさわしいわ。

1999年5月22日(土)ロードショー 6月4日(金)まで

当日:1500円 前売り:1300円 学生:1300円 シニア:1000円  
 連日:11:00/20:45 ※ただし、5/28(金)のみレイトは21:00

シネ・ヌーヴォ

Tel.06-6582-1416  
 大阪府西九条1-20-24  
 地下鉄中央線「九条」駅  
 6番出口下車徒歩2分

